



(文 竹中翔子)

「戦後松竹映画回顧録」撮影助手からみた小津映画」小津さんは、実におもしろい人だ。と懐かしむようにゆつくりと話し始めた撮影監督の川又昂氏。今もなお国内外にファンの多い小津安二郎監督に撮影助手として付いていた川又氏は、「僕は小津組の中で怒られ役だった。」と思い出を語った。「晩春ができたとき、これはものすごい作品ができたなと思った」と尊敬を示す反面、「小津監督と同じことをしてはダメだ」と当時から映画への挑戦を常に考えていたそう。僕は小津監督のように上手い画は撮れないが、おもしろい画は撮る。そこが、野村さんとか大島が気に入ってくれたんだな」と気さくな笑顔は、川又氏から映画ファンに感謝をこめた贈り物となった。

小津監督のような上手い画は撮れないが、おもしろい画は撮る

情報と映像

これからのメディア情報学(5)

川合 康史(かわい やすお)

湘南映像祭新聞

Shonan Citizen Media Network
Shonan Video Festival Newspapers

発行者
NPO法人
湘南市民メディアネットワーク
神奈川県藤沢市藤沢110-4
TEL/FAX 0466-62-2288
E-mail info@scmn.info

<http://scmn.info>

協力

江の島ボウリングセンター
TEL 0466-23-6114
藤沢市片瀬海岸2-15-22
<http://a-bowl.jp/>

cine
koya



映像は、それを取り巻く情報技術と新しいメディアの発展により、新しいカタチへと進化しようとしています。このダイナミックな変化の時期を楽しみながら乗り越え、新しいメディアクリエイターの育成に取り組んでいます。今回は、前回に引き続き、映像へとつながる情報教育の一例について述べたいと思います。今回はDTP(デスクトップパブリッシング)について述べました。それらの成果は、今回の第4回湘南映像祭のポスターなど、広く成果物を社会へと発信し、つながりを持たせることで、学生の興味を引き出すと共に、社会に通用する成果物を制作することの責任感について体感するプログラムです。

DTPと映像は何の関係があるのか?ポスター一枚作る際、まずそのポスターというメディアを用いて伝えたい情報があります。映像祭の場合、まずタイトルがあり、会場や日時などの概要があり、主催者や後援者などの情報が必要です。これらの情報を整理し、必要な情報を付加し、不要な情報を切り取ります。また、ポスターというメディアの特性を考え、遠くから来ず人々の注視を集める必要があります。今回のポスターは基本形ですが、広報というカタチには、アイデア次第で様々な仕掛けを作ること可能です。さて、これらの作業は、映像制作に似ています。伝えたいメッセージや情報をどのように整理し、人々に伝えるか。紙媒体と映像媒体の違いは、縦横の比率や、文字の入れ方、またそれに付随する、ベクタ画像とラスタ画像の取り扱いの技術的背景など、様々な要素が



川合 康史
(かわい やすお)

文教大学情報学部
情報システム学科デジタルコンテ
ンツコース 准教授

あります。さらに、デジタルでの加工だけでなく、大判プリントを用いる際、紙質を選び、印刷した後、トンボに沿ってカッティングします。大きな紙を扱うのは大変な作業です。今回のポスターは、学生による相互評価からのコンペ形式で、何点かを事務局に送りました。その後、今回の映像祭のコンセプトにあった作品が採用されることとなりました。

みなさま、こんにちは。コウちゃんです。
DMD(Digital Movie Director)をご存知ですか?
「億総クリエイター」を目標に、主語、述語、目的語、セリフなどを1行ずつ入力してゆくことにより、誰もが簡単にアニメ映像を生成できるシステムで、現在大変注目を集めています。このDMD、ついに新バージョンDMD2.0が6月9日よりフリーウェア公開が始まっています。みなさまもぜひダウンロードして使ってみてください(<http://www.movie-school.org>)。開発者の東北大学青木輝勝准教授らによると「中学生、高校生、大学生の映像表現教育からシニア世代の生涯教育まで幅広く利用して頂きたい」とのこと、出張講座「ムービー塾」の開催も随時受け付けているそうです。すでに学校でのムービー塾開催も多数行われておりますので、安心して開催を依頼することが出来ます。ご関心をお持ちの教育機関の先生方などはぜひともムービー塾事務局宛に「一報ください」(E-mail:info@movie-school.org)。さて、今回レポートするのは2008年10月4日(土)、5日(日)、東北大学・電気通信研究所(宮城県仙台市)にて行われた「2008通研公開」の中の工作教室「簡単なアニメを作ってみよう」と題して開催されたものです。この工作教室、日頃のムービー塾とは異なり、1回あたり3名、15分程度で簡単なアニメを制作する、という内容で進められましたが、小中学生を中心に入場者が途切れず、最も混雑している時間帯では「60分待ち」の札を入口に下げなければならぬほどの大盛況ぶりでした。スタッフも大わらわで休み暇がないと言った感じでしたが、東北大学沼澤・青木研究室の学生さんのサポートもあり、大きなトラブルもなく盛況のうちに終了しました。スタッフ・学生さんともに「子供が喜ぶ顔を見ると苦労も吹き飛ばね」とおっしゃっていたのが印象的でした。



また、すぐ近くの部屋では沼澤青木研究室の研究展示もなされておりました。こちらでは「世界初!デジタル座禅」なる面白そうな企画が来場者の注目を集めていました。ホンモノの袈裟(けさ)を着たニセ坊主(たぶん学生さん)もいて大変楽しそうでした。



一人一人にこだわって 学習のコーチを40年

一ひらめく頭に変える一

自著

『お母さんは勉強
を教えないで』

草思社

書店でお取り寄せできます

小中高 個人教授 補習・受験 数英国

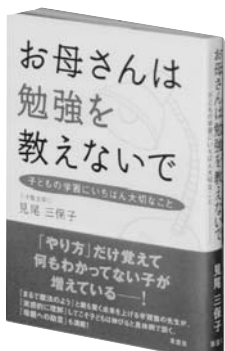
IQ
知 と 心
EQ

江ノ電 江ノ島駅 2分

ミオ塾

ミオジューク

☎0466-26-3019



みんなの 青木先生の映像技術講座

青木 輝勝 (あおき てるまさ)

てるまさ

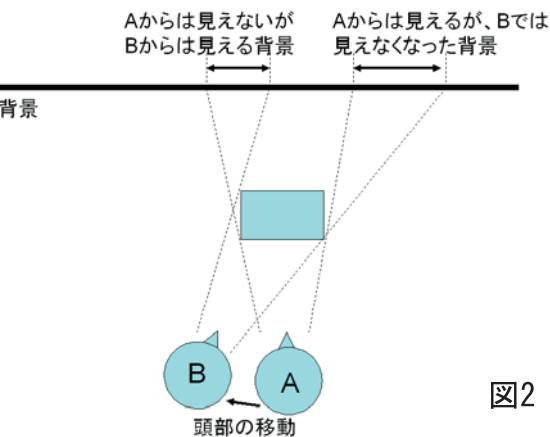
先日、ちよつとした縁から会津・正蓮寺の武藤淳一住職の講話を伺う機会があった。初心者にも大変わかりやすく、また、心に染み入る内容で、仏教のこと、浄土真宗のことなど何も知らない私にとつても大変勉強になった。わずか1時間程度お話を伺っただけで、心のやすらぎを感じられる非常に有意義な時間であった。仏教というと宗教のひとつであることは疑いないのだが、私の感じた印象としては、宗教というよりもむしろ「人としての生き方」に関する哲学のような印象をもった。ある意味において理論整然としており私のような頭の固い理系人間にもすんなりと心に入ってきたのは想定外の得がたい体験であった。私も詳しいことは知らないが、こういった講話会というものは日本全国どこでも簡単に参加できる機会が結構たくさんあるらしい。人生に疲れた、もしくは自分探しに奮闘している読者のみなさま、機会があればお坊さんの有難いお話しに耳を傾けてみるのもなかなか良いはず。

ところで、私は興味を持つとすぐに関連書籍(入門書)を買ってしまう悪癖がある。最後まで飽きずに読み終えることのほうが少なくないのだが、まあそれも私の個性だと思いきりあきらめている。さて、今回の講話後も、この寺で売っていた入門書「この世を生きる念仏の教え」(東本願寺出版部、一葉真・著)をさっそく購入。すぐに家で読み始めたが、これがなんとも面白い。あつという間に読み終えてしまった。この中で特に印象に残っている言葉に「無辺際(むへんさい)」という語がある。この無辺際とは浄土(いわゆる極楽浄土)の性質を表す語のひとつで、一般には「端っこがない」、つまりは「端っこがないほどに広い」という意味と考えられている。ところがこの語の意味、実はとつともなく深いという。今の世の中、自分を中心に据えようと必ず誰かが端っこにくる。例え

ば10人の人間が集まれば、あいつは好きだがあいつは嫌い。あいつは役に立つがだがあいつは役に立たない。そんな自分本位の基準に従って必ずグループ化がなされてしまう。グループ化とはつまりは端っこができてしまうことに他ならない。浄土というのはそういう現世とは異なり、1人1人が主役であり続けるという世界観だ。だから端っこがない。考えてみれば、どんな人にとつても他人の人生の脇役だと思つて生きていく人は誰もいない。その意味において現世も無辺際であるのが理想の姿だ。しかしながら今の世の中では、自分勝手な人もいれば権力をかさに威張っている人も少なくない。また、近頃のニュースを見ていると様々な犯罪報道されるがその中には自分本位でしかモノを考えられない人間が多すぎると感じるのは私だけではない。

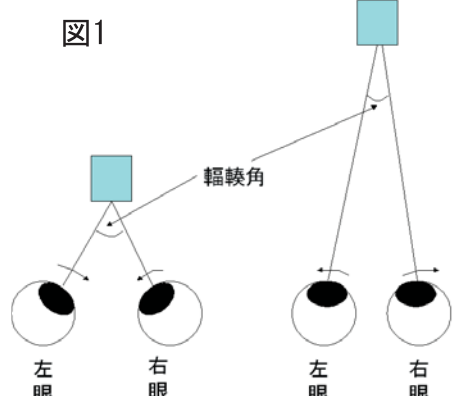
こういった世の中だからこそ、一度原点に返つて、「他人の立場になつてモノを考える」というごく基本的な習慣がきちんとできているのか自問自答してみることが必要なのかも知れない。

さて、少々精神論的な話になりました。今月の技術講座に入りましょう。先月より、3D映像について解説しています。3D映像はこれまで技術的な制約から「子供だまし」「イベント専用」と不当に低い評価を受けてきましたが、近年非常に大きく進展しています。ハリウッド映画にも3D映画が増え、今後3D映像の本格化が進む可能性は非常に高いといえます。その意味で、映像技術に興味がある方も映像制作に興味がある方もぜひ3D映像について学んでみてください(特に3D映像制作系に関しては現在恐ろしいほどに人材が不足していると言われています)。さて、私たちが映像を見たときに立体的に感じる要因は非常にたくさんありますが、実はこれらの立体視の方法は



また、片方の目だけに限って言いますと、人間は近いものを見るときには目の中の水晶体が膨らみ(厚いレンズとなる)、遠いものを見るときには水晶体が薄くなる(薄いレンズとなる)ことにより自動的に焦点調節を行っています。このように見るものの距離により水晶体の厚みを自動的に調節する機能は「調節」と呼ばれています。

さらに、人間が日常生活において近くの物体と遠くの背景を同時に見ているときに少し頭を動かしたとき、目(図2)の位置が同じでないことを考えると、大きく変化することになります。このように少し頭を動かしたときに背景の見え方が変わり、それにより脳の中で自動的に奥行きを計算する機能のことを「運動視差」と呼んでいます。



以上の機能をうまくディスプレイに組み込むと人間にとつて立体的に見えることがわかっており、実際、これらを支援できるディスプレイも開発されています。

ただ、その反面、これらのディスプレイについては様々な問題点も指摘されています。最も大きな問題のひとつは、これらのディスプレイで3D映像を視聴すると、目が非常に疲れやすく、長時間の視聴に耐えられない(例えば、気持ち悪くなる)という現象が生じてしまうことです。

さて、なぜこのようなことが起こってしまうのでしょうか?それについては次回説明することに致しましょう。



青木 輝勝 (あおき てるまさ)

東北大学 電気通信研究所 / 情報科学研究科 准教授
文部科学大臣表彰若手科学者賞 など受賞多数

THE OSHIMA GANG ザ 大島ギャング



監督：葉山 陽一郎
主演：片岡 明日香
尾関 嗣治
出演：大島 渚
小山 明子
川又 昂
他
制作：NPO法人 湘南市民メディアネットワーク

NPO法人
湘南市民メディアネットワーク
インターネット (WEB) ライブ放送
『こんにちは映像ですが』 放送開始!
放送日時 毎週水曜日 12:40~13:10
湘南市民メディアネットワークホームページ
<http://scmn.info>
にアクセスしWebライブ番組配信へ
メディア講座(映像制作講座)
シネコヤ+ワークショップ
撮影・編集 /他

